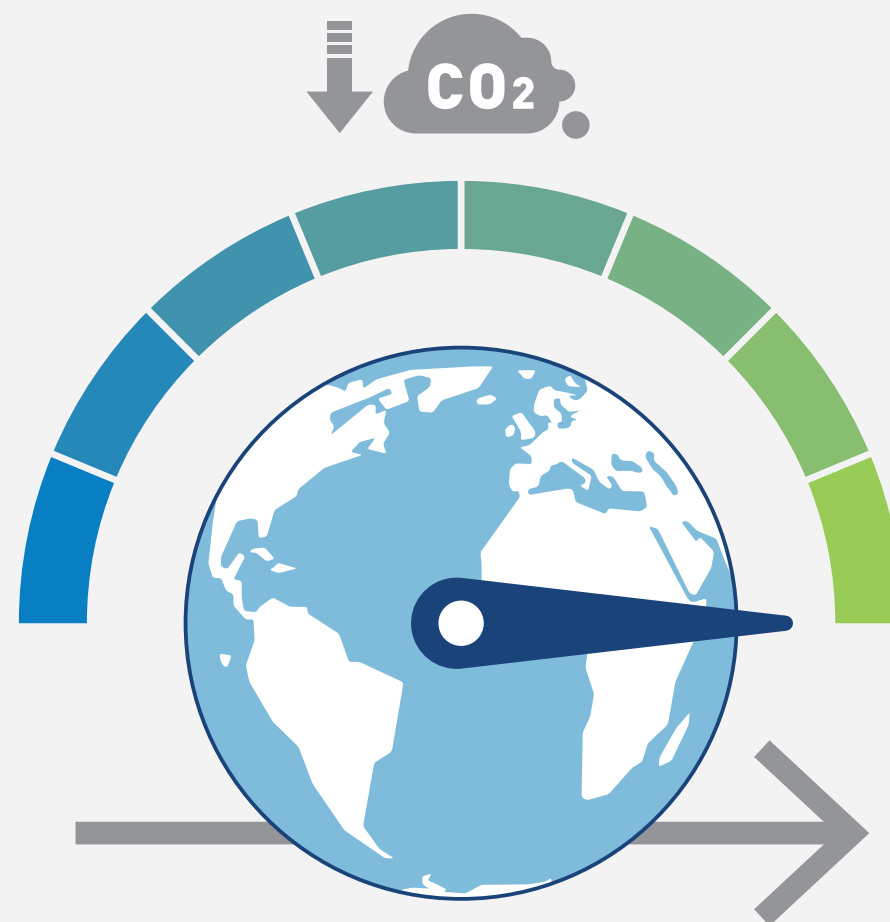




サステナブルNRT2050とは

成田国際空港では、「気候変動への取り組み」「資源循環への取り組み」「環境マネジメント」「周辺環境への取り組み」の4つの取り組みを柱に環境負荷低減策を推進しています。これらの取り組みを継続しつつ、更に「気候変動への取り組み」を進めるため、CO₂排出量削減に関する中長期の数値目標を掲げた「サステナブルNRT2050」を2021年3月に策定、脱炭素化をはじめとした持続可能な社会の実現に貢献し、世界トップレベルの空港を目指しています。

年度目標（中期）
2030



年度目標（長期）
2050



- ▶ NAAグループが排出するCO₂を2015年度比で**30%**削減
- ▶ 成田空港から排出されるCO₂を2015年度比で発着回数1回あたり**30%**削減
- ▶ NAAの「**ネクストアクション**」を定めてCO₂削減を推進
- ▶ 更なる機能強化における**環境負荷低減**の取り組みを推進

- ▶ NAAグループが排出するCO₂を**ネットゼロ**に※1
- ▶ 成田空港から排出されるCO₂を2015年度比で**50%**削減

達成に向けた取り組み

NAAグループの取り組み



先進技術の導入

NAAが主体となり、先進技術を積極的に導入し
CO₂排出量削減に貢献

2030



2050

- ▶ 建築物のカーボンニュートラル化※2
- ▶ 購入電力の20%を再エネ化
- ▶ 航空灯火の80%をLED化
- ▶ 特殊車両以外の業務用車両をすべて低公害車化

- ▶ 建築物のZEB化及びエネルギー供給のゼロカーボン化※3・4
- ▶ 購入電力の100%を再エネ化
- ▶ 航空灯火の100%をLED化
- ▶ 業務用車両のゼロカーボン化



ネクストアクション

NAA社員の意識を啓発し、
早期に以下の目標達成を目指す

- ▶ NAA本社ビルのカーボンニュートラル化
- ▶ NAA社員のCO₂ゼロ出張
- ▶ NAA社員の低炭素通勤の推進



更なる機能強化

更なる機能強化において、
環境負荷低減の取り組みを推進

- ▶ 航空機地上走行距離の短縮
- ▶ 工事中の環境負荷低減
- ▶ 伐採木の有効活用

ステークホルダーの皆様とともに



ステークホルダーの皆様との協働により、
CO₂排出量の削減促進策を多面的に検討・推進

- ▶ SAFの受入体制の整備※5
- ▶ フォークリフトの低公害化
- ▶ ステークホルダーのCO₂排出量削減促進策の導入

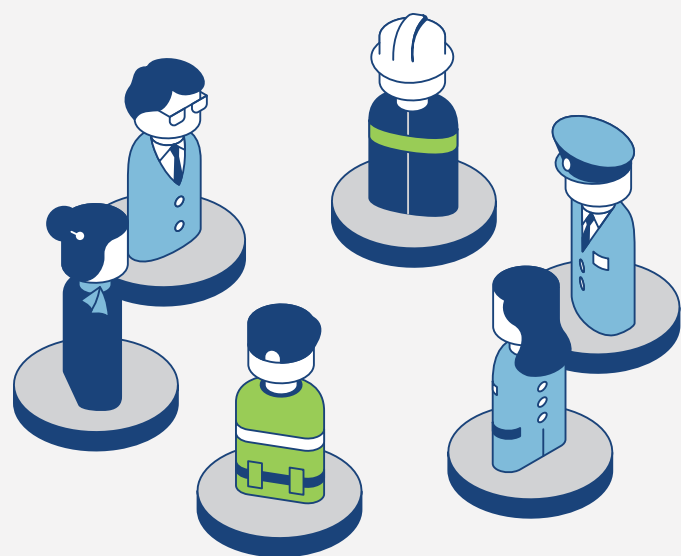
- ▶ 次世代型航空機の受入体制の整備
- ▶ GSE車両のゼロカーボン化※6
- ▶ ステークホルダーのCO₂排出量削減促進策の導入



成田国際空港脱炭素化推進計画

2022年6月、空港法等の一部改正※により、航空脱炭素化推進基本方針が制定、目的規定に脱炭素化の推進が位置付けられました。これに基づき、脱炭素化推進計画の実施、脱炭素化に関する必要な協議や調整の実施、取り組み状況のフォローアップ実施等を目的に、学識経験者や空港関係事業者、行政機関等を新たに迎え入れ、従来のエコエアポート推進協議会からサステナブルNRT推進協議会へ変更、拡大しました。これに合わせ、成田国際空港では、2050年度のカーボンニュートラルを目指すため、制度創設後初の空港脱炭素化推進計画を作成、2023年12月に国土交通大臣から認定を受けました。

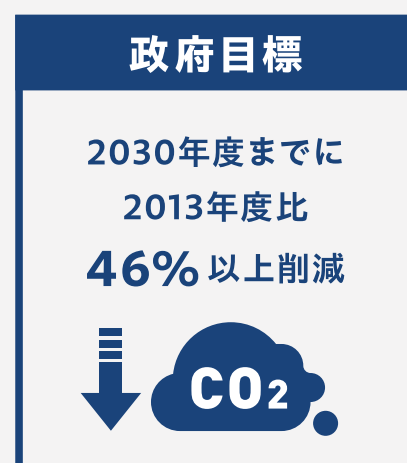
※空港脱炭素化推進計画：空港法第24条、第25条
空港脱炭素化推進協議会：空港法第26条



成田国際空港脱炭素化推進計画

CO₂ 排出削減目標

成田国際空港は、2018年に国際空港評議会の空港カーボン認証プログラム（ACA）による認証を受けており、このACA認証時を算定基準としたCO₂排出量の算定が2015年まで算出可能であるため、2015年度を基準年度として設定しています。そのため、政府目標である2013年度比46%削減に相当する2015年度比50%を削減目標としています。



成田国際空港におけるCO₂排出量

成田国際空港脱炭素化
推進計画範囲

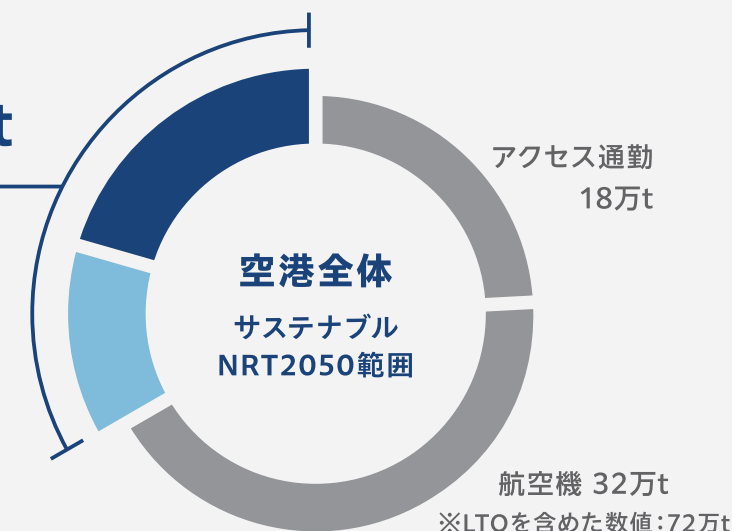
25万t

空港会社

燃料燃焼5.9万t
電気使用9.6万t
車両0.1万t

ステークホルダー

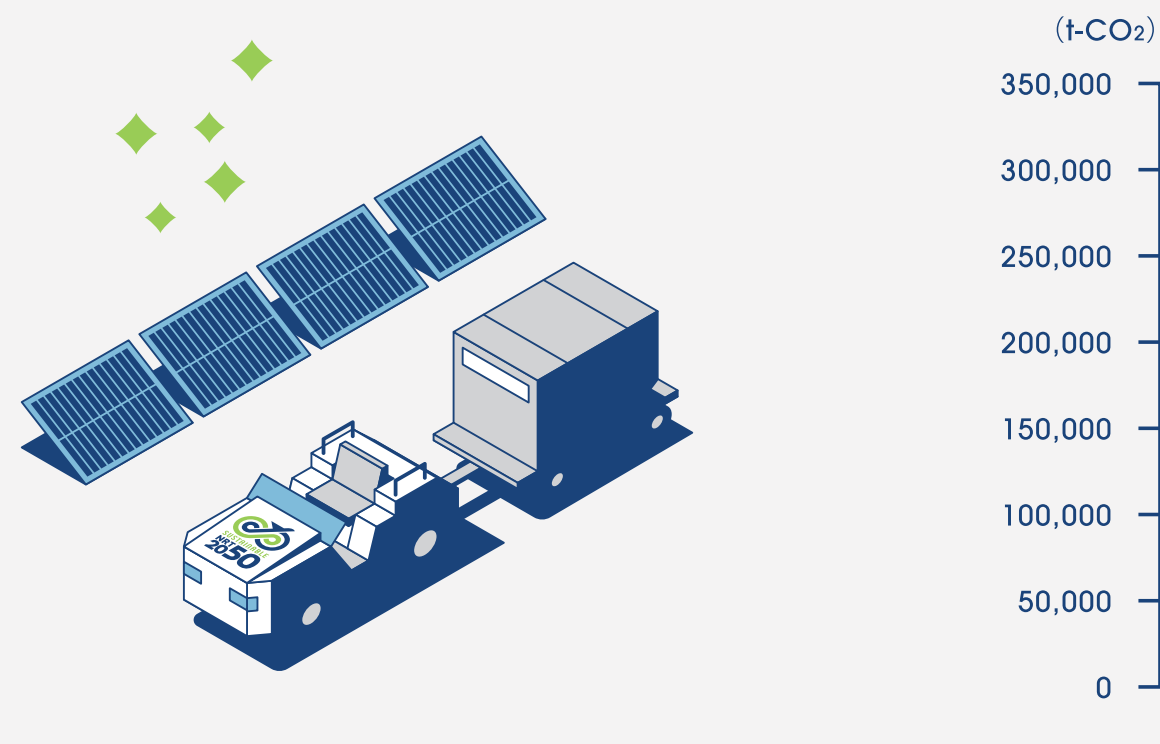
燃料燃焼1.4万t
電気使用6.5万t
車両1.5万t



空港施設と車両から排出されるCO₂を

2030年
までに
2015年度比**50%**
(2013年度比46.8%)

2050年
までに
カーボン
ニュートラル化



- ① 車両
- ② 電力(事業者)
- ③ 燃料(事業者)
- ④ 電力(NAA)
- ⑤ 燃料(NAA)
- ⑥ 再エネ非化石証書
- ⑦ 電力排出係数
- ⑧ 太陽光(着陸帯)
- ⑨ 太陽光(着陸帯II除く)
- ⑩ 省エネ
- ⑪ 再エネ非化石証書
- ⑫ クレジット
- ⑬ 電力排出係数の低減
- ⑭ CCUS※7
- ⑮ 太陽光発電
- ⑯ EV/FCV化
- ⑰ 省エネ

成田国際空港脱炭素化推進計画

取り組みエリア

“機能強化”エリア
(B滑走路延伸エリア)

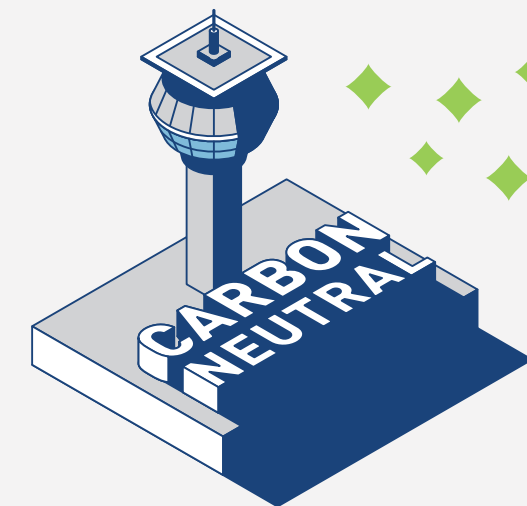
“機能強化”エリア(C滑走路新設エリア)

空港全体または空港周辺地域での取り組み



成田国際空港脱炭素化推進計画

取り組み概要



2030



- ▶ 空港建築施設の照明を100%LED化
- ▶ 航空灯火・エプロン照明灯を100%LED化

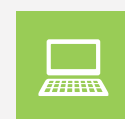


- ▶ 太陽光発電の導入:75MWdc
(着陸帯Ⅱ等:45MWdc/着陸帯Ⅱ等除く:30MWdc)



- ▶ 空港車両のEV/FCV化
NAAグループ:100% 事業者業務用車両:70%
フォークリフト:50% GSE:30%(燃料転換含む)

2050



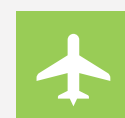
- ▶ エネルギーマネジメント



- ▶ 工事・維持管理での取り組み



- ▶ 地域連携・レジリエンス強化



- ▶ GPUの利用促進※8
- ▶ SAF導入促進
- ▶ 地上走行距離の短縮等



- ▶ 新規建築物等のZEB化



- ▶ 太陽光発電の導入:180MWdc
- ▶ 蓄電池・水素の利活用



- ▶ 空港アクセスに係る取り組み



- ▶ 意識醸成・啓発活動



- ▶ 吸収源対策
- ▶ 二酸化炭素回収・有効活用
- ▶ カーボンクレジットの活用※9

※1 ネットゼロ

省エネや再エネ導入によりCO₂排出量を削減したうえで、排出されるCO₂については炭素固定・除去等により相殺し、CO₂排出量を実質ゼロにすること。(クレジット購入は含まない)

※2 カーボンニュートラル

省エネや再エネ導入によりCO₂排出量を削減したうえで、排出されるCO₂については炭素固定・除去やクレジット購入等により相殺し、CO₂排出量を実質ゼロにすること。

※3 ZEB

Net Zero Energy Buildingの略。建築設計や自然エネルギーの活用により省エネ化したうえで、再エネを導入することにより、年間の一次エネルギー消費量の収支をゼロとすることを目指した建築物。

※4 ゼロカーボン

再エネやバイオ燃料の使用により、CO₂排出量をゼロにすること。

※5 SAF

Sustainable Aviation Fuelの略。原材料の生産・収集から燃焼までの過程で、CO₂排出量が少ない持続可能な供給源から製造されるジェット燃料。

※6 GSE

Ground Support Equipmentの略。グラウンドハンドリング作業に使用する器材の総称。

※7 CCUS

「CCS(CO₂回収・貯留)」と「CCU(CO₂を利用する技術)」の2つの言葉を合わせたもので、CO₂を回収し、貯留または利用する考え方、技術のことをいいます。

※8 GPU

Ground Power Unitの略。地上において航空機に必要な空調や電力を供給する施設。

※9 カーボンクレジット

カーボンクレジットとは、主に企業間で温室効果ガスの排出削減量を売買できる仕組み。